公益財団法人 東京2025世界陸上財団 2025年度 事業計画書

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

2025年は、単一競技の国際大会としては、最高峰の大会の一つである世界陸上の開催年である。

当財団は設立以来、大会を成功に導くため開催基本計画に基づき大会運営に必要な事業を着実に推進してきた。大会に向け、運営トレーニングでの検証等を通じて、各種計画をより具体化させ、これまでの集大成として大会本番に臨む。

2025年度は、以下の事業について、WAとの協議を更に進め、日本陸上競技連盟、東京都、国、スポンサー等と緊密に連携を図り、大会成功に向けて一丸となって取り組む。

また、全ての業務を滞りなく完了させるため、大会後を見据えて、計画的かつ的確に業務を遂行していく。

1 大会成功に向けた着実な準備及び円滑な大会運営

① 大会準備の推進及び大会運営

(競技運営・会場運営等)

- ・大会に参加する全てのアスリートが最大限のパフォーマンスを発揮できるよう、トラック&フィールド競技及びロード競技の運営に係る計画に基づき、着実に競技環境を整備する。運営トレーニングでの検証等を踏まえ、大会期間中の円滑な競技運営を実施するとともに、充実した練習環境を提供する。また、競技の感動や興奮を国内外の方と共有できる演出の検討、各国の陸上競技連盟に必要な情報の適時適切な提供を行う。
- ・関係者動線や運営諸室等の配置を含めた、運営計画の深度化を着実に行うとともに、同計画に基づく各種オペレーションを確実に実践することにより、円滑な会場運営を行う。また、大会運営に必要な共通備品等を調達し、適切に設営・撤去を行う。
- ・財団内の各部門や施設所有者等とも密接に連携・協力し、仮施設等の設置工事を期限内に安全かつ確実に完了させる。また、メディア関係設備や資器材の調達を行い、全世界への発信に必要な報道環境を整備する。大会期間中には、委託事業者や施設管理者等とともに、仮施設等の維持管理

業務を的確に実行する。大会後は、仮施設等を撤去し、期限内に施設の原状復旧を行う。

- ・会場等で利用する通信ネットワーク等を構築・運用し、大会後には速やかに撤去を行う。

(医療、アンチ・ドーピング)

- ・大会時には、財団が設置する会場医務室での診療に加え、必要に応じて大会指定病院等への患者搬送を行うことで、適切な医療サービスを提供する。
- ・世界アンチ・ドーピング規程及び国際基準に基づくドーピング検査を実施し、参加アスリートにクリーンな戦いの舞台を提供する。

(暑さ対策)

- ・東京都等と連携し、会場周辺やロード競技沿道における観客の熱中症予防に向け、休憩所の設置や熱中症対策に関する普及啓発など、必要な対策を検討・実施する。
- ・選手向けには、暑さ指数等の情報提供、医務室の設置やアイスバスの配置など、必要な対策を検討・実施する。

(宿泊)

- ・大会関係者が快適かつ安心して宿泊できるよう、各宿泊施設と密接に協力し、受入れの準備を進める。

(輸送)

- ・国、東京都を始めとした関係自治体、交通管理者等の関係機関と連携し、輸送計画の深度化を着実にを行うことで、安全かつ迅速で円滑な移動を可能とする輸送サービスの提供に繋げる。また、電気自動車の導入や公共交通機関の活用等による、環境に配慮したサービスの提供を図る。

(出入国)

- ・大会関係者が円滑に出入国できるよう、国、空港管理者等と連携し、空港での各種オペレーションを適切に実施する。また、ビザを要する大会関係者に対して、ビザ申請マニュアルに基づき入国支援を行う。

(物流)

- ・大会期間中に必要とされる物品の効率的な物流サービスを提供するため、通関及び輸出入のサポート、会場における搬出入の支援等、大会運営に必要な多くの物資や機材を迅速かつ確実に届けられる体制を構築する。

(飲食)

- ・対象者のニーズに合った安全で衛生的な飲食と質の高いサービスを提供するため、飲食提供事業者と連携し、メニュー、提供方法等を具体化する。また、多様な食習慣に配慮した飲食メニューや東京産食材の提供等、大会関係者等に対する充実した飲食サービスを実施する。食数の精査や提供の仕方の工夫等を通じてフードロスの削減を図るとともに、廃棄物の排出量をできる限り削減し、環境に配慮した持続可能な大会に向け取組を行う。

(警備)

- ・国内外からの観客及び大会関係者等全てに対して安全な環境の確保に向け、関係機関と調整し、警備計画の深度化を進めるとともに、緊急時対応マニュアルを作成するなど、対応力を強化する。また、警備員に対し、教育・訓練を実施し、大会特有の業務や会場特性への理解を深め、大会警備に関連した能力向上を図る。

(ボランティア)

- ・大会運営を支えるボランティアについて、ボランティア経験の有無や老若男女等を問わず、様々な方がバランスよくチームを組み、一丸となった活動ができる体制を構築する。
- ・オリエンテーションや共通研修（セーフガーディングに関する研修、リーダー研修等）、大会直前には、会場ごとに必要な知識や役割を習得することを目的とした会場別・役割別研修を実施する。

(プロトコール・開閉会式)

- ・大会関係者の来場時の対応について、関係機関と連携して準備を進めるとともに、東京の魅力発信とプレゼンス向上の場として活用するなど、ホスピタリティ計画に基づき、東京らしい満足度の高い接遇を行う。
- ・大会の節目としてふさわしい開閉会式及びアスリートの努力と活躍をたたえ、広く人々の記憶に残る表彰式を実施する。

(メディア運営)

- ・大会の報道露出を高め、世界陸上の価値を最大化するため、ブロードキャスト、プレスやフォトに関するオペレーション計画に基づき、適切な取材環境の提供及び円滑なメディアオペレーションを実施する。

② 関係団体等との連携強化

- ・サイトビジットの受入れなどの機会を活用し、WAと意見交換や調整を効率的に行う。
- ・日本陸上競技連盟、東京都、国、スポンサー等の関係団体と、会場内外での取組について具体的な協議を進めながら、連携を強化し実施する。

2 マーケティング・チケットングと広報活動

① 大会ブランドの展開

- ・大会ビジョンを体現する、一貫性のあるブランドアイデンティティを様々なプロモーションに活用することで、大会の素晴らしさを世界中に披露し、世界陸上のブランド価値を高めていく。
- ・大会ロゴを基調とし、ジュニアアスリートや若手アスリートの参画を得て制作したメダルを発表する。

② 大会ブランド等の権利保護

- ・財団が開発した大会のロゴ、マスコット等、世界陸上の知的財産を保護するとともに、大会のブランド価値を更に高めていくために、WAスポンサー、放送権者、イベントスポンサー、ライセンス等に許諾した知的財産の使用権利などを保護する。

③ スポンサーシッププログラムの推進

- ・スポンサーシップ販売方針に基づき、引き続きスポンサー獲得に取り組むとともに、スポンサーワークショップの開催等、スポンサーが多様な活動を行うための場所と機会を提供し、スポンサーの大会への参画を促進していく。

④ チケットング

- ・各関係者と連携しながら、戦略的なプロモーションを実行し、チケット販

売を加速させる。大会後は、チケットの精算業務や必要な事後対応等を行う。

⑤ 広報活動の実施

- ・様々なコミュニケーション（記者会見、プレスリリース、デジタルメディア等）を通じ、積極的な情報発信を行う。
- ・カウントダウンイベントの実施など、日本陸上競技連盟や東京都等の関係団体との連携による戦略的な広報活動を通じて大会気運を醸成し、大会の認知度向上とフルスタジアムの実現に繋げる。

3 公正で信頼される組織運営

① 大会成功に向けた組織・運営体制の構築

- ・適切なガバナンス体制及びコンプライアンスを確保しつつ、引き続き即戦力となる人材を確保し、大会成功に向け、組織・運営体制の強化を図る。
- ・大会時の体制については、迅速な情報共有・事案対処など、円滑な大会運営の観点から適切な体制を整備する。体制の整備にあたっては、運営トレーニング等を通じて検証を行い、確かなものとしていく。

② 収支均衡に向けた財政運営

- ・WAとのサービスレベルの適正化に向けた協議等を通じて、経費の一層の削減に取り組むとともに、事業の優先順位の明確化、収入確保の取組など、財政計画に基づく適切な運営を行う。

③ コンプライアンス、ガバナンス、監査体制 等

- ・理事会を適時適切に開催し、円滑かつ迅速な意思決定を行うとともに、理事会資料の公表などを通じて財団運営の透明性を確保する。
- ・外部委員が参画する契約・調達委員会等における契約案件の厳正な審査や積極的な契約情報の公表により、契約・調達行為の公正性、経済性及び透明性の確保を図る。
- ・財団が所有する財産の適正な処分に向けて、外部委員が参画する財産管理処分委員会において処分方法や処分先を審査し、大会終了後の速やかな財産処分を図る。
- ・役職員等への継続的なコンプライアンス教育の実施等を通じて、コンプラ

イアンスの確保を徹底するとともに、利益相反を適切に管理する取組や第三者審査委員会での審査を通じて、ガバナンスに係る事案の適正性等を担保する。

- ・有識者等で構成される役員等候補者選考委員会において、役員等候補者の選考を適切に行う。
- ・監査室を中心に、監事、会計監査人が連携する三様監査体制の下、リスクアプローチ手法による監査を実施する。

④ 大会終了後の取組

- ・大会の準備段階から、大会後を視野に入れ、計画的に業務を進める。各種報告業務や資産物品の会場からの撤去、会場の原状復旧、各種契約の完了、債権債務の確定、成果物の引継ぎなど、円滑な解散に向け、全ての業務について適切に進行管理を行い、的確に遂行していく。
- ・大会終了後も引き続く業務を着実に処理できるよう、効率的な組織・運営体制を整備する。

4 大会が未来に紡ぐレガシー

① 持続可能性

- ・大会ビジョンやWAが示す持続可能性に関する6つの柱とABW基準を踏まえ、再生可能エネルギーの活用、3Rの推進、多様な人々の大会への参画、多様性への配慮等に取り組み、コンパクトで環境に配慮した持続可能な大会を実現する。

② 次世代への価値の継承

- ・競技観戦や競技体験を通じて、未来を担う子どもたちが陸上競技を身近に感じ、スポーツを始めるきっかけに繋げていくとともに、スポーツの持つ価値を次世代に継承する。

③ 新たな国際スポーツ大会のモデル

- ・フェアネスを体現した信頼される組織運営やコンパクトで最適化された大会運営を通じて、今後も継続的に開催可能な国際スポーツ大会のモデルを構築する。